

議事概要

開催日時：令和6年（2024年）9月13日金曜日 14:00～17:00

委員：別紙1（委員名簿等）記載のとおり（委員5名中5名オンライン出席）

関係者：国土交通省 港湾局 海洋・環境課（3名）

事務局：ジャパンプルーエコノミー技術研究組合（4名）

【議事要旨】

1. 佐々木淳委員が、委員長としての職務を執行し、本会議においても議長となることが異議なく確認された。
2. 本会議において審議の対象となる各申請につき、利害関係を有するおそれがある旨の申告等がある委員については、当該申請の具体的な審議がなされる際には、離席その他の方法により審議に適宜参加せず、これにより、その審議の公正さを手続的に確保し、適正手続の要請を満たすべきこととされている。
そこで、本会議の審議に先立ち、本会議における審議対象である各申請について、利害関係を有するおそれがある旨の申告が、別紙記載のとおりでなされたことも確認された。
その上で、各委員において、該当する各申請の審議に際しては、議場（ミーティング。以下、同じ。）からの一時退出（待機室への移動。以下、同じ。）等、委員会の審議に不当な影響を及ぼすことのないよう適切な措置を講ずべき旨が確認された。
3. 続いて、まず、確実性評価についての考え方に関する一般論についての審議が行われた。
4. 次に、委員らが本会議の開催前に申請書及び添付資料を確認、検討した別紙2記載の各申請のうち、特に重点的に審議すべき点を中心として具体的な審議検討が行われ、各申請内容等を踏まえ、それらの具体的な藻場面積の確実性及び吸収係数の確実性（以下、これらを併せて「確実性」という。）の評価等に関して審議がなされた。
 - (1) まず、新規申請プロジェクトの申請（JBC00000098）につき、確実性の評価等に関する審議がなされた。
審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨を異議なく採決し、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴うCO₂吸収量として申請された数量[t-CO₂]について検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

(2) 次に、継続申請プロジェクトに関しても、確実性の評価等に関する審議がなされた。

① 継続プロジェクトの申請（JBC00000105）につき審議するに先立ち、利害関係を有するおそれがある旨の申告があった中西委員は議場から一時退出した。その上で、その余の委員により当該申請につき確実性の評価等に関する審議がなされた。

審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨を異議なく採決し、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量 [t-CO₂] について検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

採決後、中西委員は議場へ復帰した。

② 継続プロジェクトの申請（JBC00000107）につき確実性の評価等に関する審議がなされた。

ここで、委員から、当該申請の内容につき修正、追記等を求めるべき事項がある旨の指摘がなされ、本申請については、委員会後、申請者へ差し戻し、補正を求めるべきこととされた。

審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨を採決したものの、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量 [t-CO₂] の検証に関しては、審議の結果等を踏まえ、次回会議以降へ継続審議とすべきこととされた。

③ 継続プロジェクトの申請（JBC00000110）につき審議するに先立ち、利害関係を有するおそれがある旨の申告があった長谷川委員は議場から一時退出した。その上で、その余の委員により当該申請につき確実性の評価等に関する審議がなされた。

審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨を異議なく採決し、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量 [t-CO₂] について検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

採決後、長谷川委員は議場へ復帰した。

④ 継続プロジェクトの申請（JBC00000112）につき確実性の評価に関する審議がなされた。

審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨を異議なく採決し、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該

申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量 [t-CO₂] について検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

- ⑤ 継続プロジェクトの申請（JBC00000119）につき審議するに先立ち、利害関係を有するおそれがある旨の申告があった岡田委員は議場から一時退出（待機室への移動）をした。その上で、その余の委員により当該申請につき確実性の評価に関する審議がなされた。

審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨を異議なく採決し、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量 [t-CO₂] について、申請内容の補正を促し、その補正内容が確認されることを停止条件として、検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

上記の停止条件の成就の確認の具体的な手続きは、以下のとおりとされた。

当委員会の事務局は、申請内容の補正を受け、委員長に対しその補正の内容を送信し、確認を求めるものとする。この送信に際しては、その余の委員らに対しても、その複製を送信することとし、委員長は、その裁量で、その余の委員等に対し、必要に応じ意見を求めることができるものとする。

その上で、当委員会は、前記の停止条件の成就の確認について、委員長にこれを一任する。

採決後、岡田委員は議場へ復帰した。

5. 以上のとおり審議・採決を行い、会議は終了した。

J ブルークレジット 審査認証委員会（令和 6 年度第 1 回）

別紙 1

委員名簿等

令和 6 年（2024 年）9 月 13 日現在

	氏 名	所 属 等	専 門 分 野	
委 員	岡田 知也	国土交通省 国土技術政策総合研究所 港湾・沿岸海洋研究部 海洋環境・危機管理研究室長	沿岸環境、生態系サービス等	出 席 [Web]
委員長	佐々木 淳	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授	沿岸環境、環境再生等	出 席 [Web]
委 員	鈴木 健司	一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター センター長兼検証審査部長	クレジット算定・検証・認証、 オフセット制度等	出 席 [Web]
委 員	中西 敬	徳島大学環境防災研究センター 客員教授	生態系工学、沿岸域の環境修復	出 席 [Web]
委 員	長谷川夏樹	国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源開発センター 沿岸生態系寒流域研究グループ グループ長	水産増養殖、海藻類等	出 席 [Web]

J ブルークレジット 審査認証委員会（令和 6 年度第 1 回）

別紙 2

J ブルークレジット 審査認証委員会令和 6 年度第 1 回審議対象申請一覧

管理番号	プロジェクトの名称	審議等回避申告
JBC00000098	志津川湾ネイチャーポジティブな養殖とまなびの場創出プロジェクト	
JBC00000105	兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり	中西委員
JBC00000107	J-Power 若松総合事業所周辺護岸に設置したブロックによる藻場造成プロジェクト	
JBC00000110	五島市藻場を活用したカーボンニュートラル促進事業	長谷川委員
JBC00000112	似島二階及び長浜地区藻場造成・保全プロジェクト	
JBC00000119	尾道の海のゆりかご（干潟・藻場）再生による里海づくり	岡田委員